舊蹟から發掘したものといふ。石材は瓜哇特殊のラヴ石で、長約二尺四寸、幅一尺三寸位、彫刻は必らずしも美なるものではないが、瓜哇古代彫像の一參考品とするに足るものである。瓜哇の彫像の我邦に傳はるものは恐らく絶無であらうと思ふし、特に近來は蘭國政府に於ても、英領印度に於けるが如く、內地の古美術品を國外に輸出するを嚴禁して居るから、今後も其優秀の參考品を獲る事は困難であらうとも考へ漸く之を將來することにした。此彫像は Pârvatî であつて、恐らく婆羅門教徒の作る所であらうが、先づ九世紀前後の作らしい。ラヴ石は質頗る粗であるが、上には白堊を塗り彩色を施したものであるから、其石質の如何は製作當時には餘り外觀上關係しなかつたものと思ふ。今存ずる遺物には其上部の着色悉く剝落し殆んど見るべからざるのであるが、此像には尙ほ處々白堊を存し、着色も極めて薄くなつて居るが稍之を認め得らるゝのである。

經濟地理上より見たる戰後の世界（下）

文學士　寺田貞次

先づ歷史的に觀ますと、夫の古代の文明が地中海東部に發し、希臘に傳はり、羅馬に盛へ、西班牙に移り、又印度の文明が支那に盛へ、朝鮮を經て日本に傳たのは、主として交通上の關係であつた。希臘にせよ、伊太利にせよ、朝鮮にせよ、皆半島國である。之は人文地學上、半島は文明の媒

介者、一種の橋であると申す所以であります。（志賀、石橋氏著人文地理）然し現今の文明は、決して交通のみの關係でない。石炭、鐵にありまゝからして、此二要素を備へて居ない土地は衰へた。希臘羅馬の振はざる、西班牙の進歩中止せる、皆之が爲であり其代り從來世界に覇を稱へた英、獨、佛等を見ると何れも石炭、鐵の主産でない處はないのである故に歐洲列强の將來を觀察するにも、亦此二要素を標準としても、必ずしも誤ではなからうと思ふ。

此點に於て、歐洲交戰國中伊太利は全く不利の境遇に在る。伊太利は周に海を擁し、北部は大山脈を以て列强と隔絶し、地中海を睥睨するの位地を有し、文明發達上有利の關係を有するにも拘はらず、戰前より國運衰退の傾向を示し、産業に於て貿易に於て、發展の跡を認めないのは、一に國内地産なく、殊に工業の二要素を缺で居る爲で、將來に於ても必ずや今の狀態を脱する事は不可能と考へられる。

次に佛國を觀るに、此國は其位置、海の關係地勢等に於て、人文上申分なき國である。夫で早く文明の域に達し、文學、美術の中心となつた。而て現今重要な石炭は國の東北部及中央プラトーに多少産出するけれども、鐵の産の之に伴はないのと、製鐵業の發達に於て他國に劣り、造船業の著しきなく、海上に於て對岸英と敵する事は出來ず殖民地としては、佛領印度支那 New Caledonia, Tahiti, Algeria, Tunis, Senegal, Guinea, Madagascar 等を有し、多くは熱帶に位して居るので熱帶地産物を得る便利はあるにも拘はらず、工業の發達著しくない。單に美術國として歐洲に於ける流行の中心をなすに止た。其結果は人民は驕奢に陷り、理想のみ高く、進取の氣を失ひ、人口の如きも其結果減少し、貿易年に衰退の傾向となつた。今次の戰爭に依り、石炭、鐵の産地たる Alsace Lorraine

を恢復した事は、將に衰頽せんとする佛國に取ては、無二の好都合ではあるが、何分戰亂中費した戰費は巨大であり、國力疲弊して居るので產業の恢復は容易の業でない。今暫くは北米合衆國等の援助を得なければならぬ狀態である。

次に露西亞を觀るに、此國は前述の如く西比利亞を加ふる時は地積廣莫無邊、生產物に富む。然し住民の文化歐洲中最幼稚、人口も少く、爲に富源の利用完全でない。石炭の如きは各所之を產すと雖、採掘未だ發達し居らず、汽車汽船は今尙薪を以て石炭に代ふるの程度である。鐵の產は未だ未知數で、獨逸との國境の處には有望な石炭、鐵の產地があつたが、今度はポーランドの獨立により此富を失ふ事になり、方々工業の發達は特種工業以外には尙遼遠であるのみならず目下は所謂過激派の世中で、國內暗黑であるから、經濟的恢復を見る迄には前途尙遼遠の感がする。目下の處は他國の援助に依り、秩序の恢復、探險、調査、富源の開發を敎ゆべきの時であると考へる。

次は愈獨逸であるが、獨逸は北部は平坦なれど、地味肥沃ならず、南部、西部は山脈性にして北方僅に海岸を有するのみ、ラインの流はあれど、河口は他領に入ると云ふ有樣で、其周圍の狀況は佛蘭西に劣て居る。然し夫の歐亞交通の大通路たりし Dambe は、墺匈地方より此國に入り、Rhine 上流に於て之と近接せる爲に、東方に起た文明は早く國內に傳はり、住民は組織的、研究的の性質であるのと、土地肥沃ならざるにせよ、英國の如く之を放棄せず、人爲的に改良を加へ、國內の需要を充すだけの收穫はなきにせよ、尙農業の發達を計り、ライン沿岸及上シレジアの石炭、鐵を利用し、製鐵を始め、工業の發達に努力し、殊に化學工業に於て世界獨特の地位を保ち、國富よく世界戰爭に於て、四ヶ年の長日月を維持し、あらゆ

る名機、名案を以て交戰國を苦しむるの强を致した。然れども、其費した戰費は幾萬を知らず、且有爲の生靈を犧牲とし殖民地は全部沒收せられ、其兩腕とも考へらるゝライン、シレジアの地は殆ど失はれ、戰前雄飛せし軍艦商船は奪はれ、あまつさへ巨金の償金を負ひ、又立つ能はざるの悲境に陷つた。然し獨逸をして全然破滅せしめなければ已まないと聲言した聯合國の處置としては、今回獨逸が Alsace Lorraine を佛國に返却し、Sasr 河畔の石炭を佛國に讓り、ライン河畔を軍備施設禁止地とし、東部地方の一部をポーランドに與へ、上シレジアの炭をポーランドに讓り、國民投票地域とし、キール運河其他二三港灣の開放並に河川の開放等で濟んだのは、獨逸に取ては實に恩惠と云はねばならぬ。勿論 Alsace, Lorraine, Saar流域並に上シレジアは石炭、鐵の大產地であり、Lorraine には又 salt をも產するから、此等の喪失は獨逸工業に取ては多大の打擊に相違ない。私は始めは兩腕を切斷された獨逸と思考したのであるが、よく考て見ると、例へ一部の炭田地は失はれたにせよ、獨逸の炭層は決して之が全部ではない。Essen 附近 Rüur 河畔 Aachen 附近等に尙豐富な炭田があり、尙南部 Saxon 邊よりも幾分の產出あり、北部の低地よりは埆炭を出すと云ふ有樣であり、鐵の如きも Essen 附近には廣大の鑛脈があり、上シレジアにも產出地は殘て居り、製鐵の中心たる Krupp の大工場等は失はれず、其他各地に散在する工場の如きも、戰爭の爲め何等損傷を蒙て居らないし、交通機關たる鐵道は少々損害を蒙たが、よく發達せる運河の如きは毫も損じて居ないから、輸送上の不便は少もない。化學工業の要素たる Salt は Lorraine 以外に尙產出も少くないから、化學工業上差程の打擊も受けて居ない。夫の殖民地の如き全部失たとは云へ、夫

の太平洋中にあるSamoaのごときは景色こそよけれ、一小島で、之を失た處で經濟上どれ程の損害とも認められないし、夫のNewguiniaの如きは地積は稍廣ひけれども、熱帶下の地で內部は熱帶の密林で猛獸毒蛇の棲家として、尙探險も出來て居ない土地であり、疫病が多く、白人の移住に適しない土地であり、南洋諸島の如きは小島許で、經濟上價値のあるのはアンガウル島の燐礦石位で他は熱帶の珍い物を出す位に止て居る。此等を失た處で獨逸にどれだけの損失とも思へない。（實地視察）殖民地中で稍價値ありと考へらるゝのは、阿弗利加の領土であつて、コプラ、護謨等を供給する他、棉花の生育に適するので、獨逸は之に栽培地として希望を屬して居た。然し其他のトーゴー、カメルン等は別に何等價値を有しない許でなく、之を維持するには年々少からぬ費用を要すると云ふ位で、此等殖民地を失た事は財政困難の獨逸に取ては、寧幸福であるとも損害であるとは考へられない。（獨逸殖民地の恢復問題と其經濟狀態）

夫よりも獨逸の大損害と申すべきは戰時中幾萬の生靈を失た事、並に有力であつた商船を失た事とである。現今は既に資本萬能の時代でない。工業は人力に依る時代だから、此人力を失た事は多大の損失であり、又商船を失た事は海外より原料品を輸入するに當て、外國船に依らなければならないと云ふ不便を生ずる。夫で其餘の事情は完全であるにせよ、現下の處、工業の恢復を見る事は至極困難で、獨逸が從來の樣に世界の競爭場裡に花を咲かせる事は、前途遼遠と云はなければならぬ。

然し獨人は屢申す如く、極く組織的な、研究的な人間である、夫で戰事中にも決して研究を怠る事のなく、食糧品其他の輸入杜絕の爲め、必需品の缺乏を感ずるに至てや、之に代用品を發明し、

以て其缺を補たと云ふ事は、吾人の屢聞く處で、これだけでも其研究心の强い事の察せられるし、又獨逸では戰後の恢復を早くする爲に、戰時中から各種の準備を怠らず、人力と原料とさへあれば何時からでも、機械を運轉し得る樣にして居るといふが、何分大戰の事であるから、準備云々は事實でないにせよ、獨人が夫程進取的の考を持て居ると云ふ事だけは、認める事が出來ます。斯る人間だから、何時迄も現今の儘に止て居るとは考へられない。まして工業發達上に於て、人力及商船以外には差したる打擊を受て居ないに於てをやである。

現今の處では商船は無く萬事疲弊して居るから、戰前にもつて居た南米、中米、並に亞細亞方面に於ける、乃至は支那に於ける勢力を失たとは云へ、夫等地方には獨系の人間の殘存して居る事は決して少くないから、此等は平和後は直に商業上に活動を開始するであらうし、又母國國力の恢復に對しても、陰に陽に骨を折るに相違ない。斯く考へる時、獨逸と云ふ國は今回の戰爭で永久に衰退してしまうとは如何しても考へられないと云ふ世論の方に贊同しやうと思ふ。

最後に英國は如何、英國は日本と同樣島國で、敵國と直接界を接して居ないので、交戰國中でも生靈を失た事は比較的少い、然し海軍力を以て獨逸を封鎖したので、此方面に於て蒙た損失は決して少くはない。又潛航艇の爲め、商船の蒙た損失も少くはない、且戰費は他の交戰國以上に多額に上て居り、戰前さしも富國たりし英國も、今は巨額の債務を負ふ事になつたのだから、平和後直に從來の商戰に加はる事は暫く困難である。他の交戰國同樣、當分は國力恢復に力を注がねばならぬ。

然し英國の場合に於ては、事情は他の交戰國と

は異て、有利な點が多い、夫れは殖民地に有力な土地があるのと、商船の尙優勢である事とである。殖民地と申せば加奈陀、印度、濠洲、乃至は馬來、英領ボルヲオ等でありますが、何れも經濟上重要な土地で、加奈陀、印度、濠洲の如きは、共に世界に於ける小麥の大產地で、人口の少い處だから、殆ど全部を輸出する事が出來る。英本國は全然農業の出來ない土地で、食料品は全部海外に仰がねばならぬ。其不足は此等殖民地から供給を受ける事が出來る。小麥許でなく、加奈陀と云ひ、濠洲と云ひ、何れも牛羊の產に富て居り、印度は牛に於て世界一であるから、肉類、乃至は乳製品の如き、此地より仰ぐ事が出來る。夫で英國は海上の交通機關さへ完備して置けば、食料上の心配はない。工業の原料品にしても、殖民地より充分に得る事が出來る。卽濠洲、南阿の羊毛、印度埃及の棉花、馬來阿弗利加の護謨等は其著しいものである。此他南阿、西濠洲よりは金剛石、金、馬來からは錫と云ふ風に、貴重な產物も少くない。尙太平洋並に印度洋の諸島からはコプラだの燐礦石等を產する。供給斯る豐富な殖民地を有して居るから、英國は例へ戰時中に於て多大の戰費を費し債務を負ふたにせよ、今後之を恢復する事は必ずしも困難でなからう。

商船の如き、戰爭の結果減少したに違ひはないが、何分戰前に於て世界に於ける船舶總噸數の約半を有して居た世界唯一の海運國であるだけに、減少したとは云へ、尙世界中其右に出づるものはなく、依然として昔の勢を失はず、太西洋上の海上權を掌握して居る事は、昔と變りない。故に殖民地其他より、食料品、原料品を容易に取り寄せる事が出來、又製造品を需要地に自由に供給する事も出來る。

尙一つ有利なのは、戰爭の結果得た新領土であ

る。即ち太平洋上では獨領の諸島を管理し、阿弗利加では獨領東阿弗利加及西南阿弗利加を管理しカメルンを合はせ、埃及は永久に英國の保護地となつた。此阿弗利加に於て獨領を管理する事になつたのは、英國從來の宿望であつた。阿弗利加の縱の連結を完成する事になり、阿弗利加の開發上のみならず、英本國の經濟上餘程の意味を備ふる事と思ふ。

斯る有樣であるから、英國が勢力の恢復をなす事は、蓋至難の事とは考へられない。殊に英國は戰時中に於ても、獨逸商品の販路を奪ふ事に努力し、獨逸の獨占品たりし染料の如きも、國內で製造する事に力を用ゐ、政府は資本を出して工場を建設すると云ふ程であるから（田尻博士歐洲戰後の財界と日本の將來）産業の恢復の如き意外に早きものがあらうし、又夫の南米貿易の如き戰前に於ける關係は甚密接であつたが、この方面の勞力は戰後北米合衆國の手に移た感に打たれるけれども、苟英國の海運力が衰へざる以上、この方面の恢復も蓋困難でなからう。

斯く考へて來ますと、戰後に於ける世界經濟上の勢力は申迄もなく北米合衆國で、之に亞では矢張り英國であり、獨、佛の如き歐諸國も早晩之にを加はるであらう。而合衆國は其收得せる巨萬の富を以て益世界に大飛躍を試るであらうし、其餘の諸國は目下の處國力恢復を目的に是又經濟的活動に熱中するであらう。して見ると今後に於ける經濟戰は必ずや一層の劇烈を加へるに相違ない。果して然らば其活動の中心は何處であらうか、將又此經濟戰に對し我國は如何に處す可であるか、此等は世界の一勢力として東洋に覇たらんとする我國に取ては最重要なる問題で又大に研究すべき題と考へる。一體我國は今回の戰爭に於て漁夫の利を得、一躍債權國となつた。我商品の販路は東洋

を初め大に擴張した。然し同じ成金と申しても、我國の場合は北米合衆國や英國と大に趣を異にして居る。と申すのは、合衆國は國土廣大、生産物の豐富なる、住民は食物に不自由がなく、工業の如きも殆ど國内の原料のみで經營する事の出來る、優に自給自足經濟を保ち得る國である。英國は本國だけでは我國と同樣であるが、有力な殖民地を持て居るので、是又或る程度迄自給自足し得るのである。之に反し、我國は國土狹小、且山岳性であり、人々稠密、食料品も不足であれば、工業用原料品も産しない。殖民地も無いから、其方の補充も出來ない。夫の合衆國や英國と全然事情を異にし、全く自給自足を營む事の出來ない國である幸石炭が豐富である爲に、工業の發達を見るに至たとは云へ、其原料は殆ど海外に仰で居るのである。棉花にせよ、羊毛にせよ、皆さうであり、鐵の如きも産出少いから、我國の工業は決して樂觀は出來ない。國際聯盟の性質上斯る事はよもやなからうとは思ふけれども、各國が原料品の輸出禁止でもやつた曉には、忽打擊を蒙るものは我國の工業である。尙日本の工業及貿易の性質を考察すると益危險を感ぜざるを得ない點が多い。

一體我國工業の原料は、棉花の如きは北米合衆國、印度方面から仰ぐが、其他支那から仰ぐ量も少くない。毛織物の如きも、原料羊毛は殆ど全部濠洲並に支那より輸入して居る。殊に工業の發達に必要な製鐵業の如きは全く支那の御蔭と云はなければならない。尙纖維工業中の麻にせよ、支那から仰ぐ量は少くないと云ふ有樣で、我國工業が支那に負ふ處甚大なる事は論を要しない。更に我國製造品の需要地に付て觀ましても、我國の輸出品は北米合衆國が唯一の大顧客ではあるが、其以外では、東亞が重な市場で、就中最重要なのは支那である。輸出額十六億圓中、約半は亞細亞貿易

で、其又約半は支那方面との貿易であるから、我國經濟上支那は最大切な國であると云はなければならぬ。戰後の激烈なる經濟活動場裡に立ち、我國經濟の發展を計るには、是非支那に待たなければならぬのである。

而支那と云ふ國はあれだけの大國で、然も其本部は土地平坦、豐饒、農作に富み揚子沿岸湖北湖南の地は天下の穀倉と稱せられ、米の大產出であり、麻、棉花等の產も多く、北部滿州の地は大豆小麥の產を以て知られて居る。此等は何れも我國の渴望する處の品物である、鑛物にせよ石炭鐵に富で居る。石炭は現今の處我國は欲くないとせよ鐵は實に我國の切望する處で、所謂太冶の鐵鑛等は我國工業の源泉をなして居り、單に農鑛品許でなく滿洲蒙古方面には羊毛の產も豐富である。由來支那は宗敎上迷神等の原因で鑛山の採掘を喜ばず、從て未だ開發されて居ないものが多い。石炭の如き其炭は日本炭とは異り、歐米邊の炭と同樣古期の炭で、品質も優良であり、炭層は其區域廣大、埋炭量の多い事は世界無比と稱して居る。(政家年表世界埋炭量表地學雜誌世界石炭量)現今は僅に我國の採掘に係る撫順炭(但此炭は第三紀炭)の他直隸の開平、灤州、山東の濰縣、博山、淄川、湖南の萍鄉位なもので採炭量も尙少く、近時は稍自足の道がついて來たが尙日本より之を供給するの狀態である。然し山西省の如き炭層の豐富なる此等の採掘を完全にする時、支那の石炭は實に豐富で、決して輸入を仰ぐ必要はない。斯く考へ來れば、支那富源の大なる誠に北米合衆國に次ぎ、世界中此位の土地はないのである。此點に於て支那は東洋の合衆國と申してよろしい。

此有望な土地を控へて居る事は、我國に取ては無二の幸福である。之は如何しても甘く利用して行かねばならぬ。然に戰後の世界は我國に獨

占せしむるを欲しない形跡が益顯著である。夫は前述の如く、現今は全く工業の時代であり、其工業は石炭と鐵とに因るものである。石炭、鐵の產地は、世界の文明國として發展して來た英國を始め、獨、米、白、佛皆是であり、稍劣ては居るが露、印度、濠洲の如き又相當の分野を保て來た。我國の如きも亦其一として現今の發達を遂げたのである。然に獨り支那のみは此條件を充分に具備して居るにも拘はらず、從來利用されず、各國の羨望となつて居た。然而今や世界の大勢一變し、世界經濟戰は益激烈ならんとするに際した。此無限の富源何ぞ徒に埋沒に委するを得ん。將來の列强は必ずや眼を此處に注ぐに相違ない。世界經濟戰の中心となるに相違ないのである。支那たるもの將に覺醒す可きの秋でなからうか。斯くなつて來る時、忽利害相容れざるものは我國をおいて他に無いのである。是支那の富源をして我國の獨占を許さない所以で、夫の巨億の富を藏し、其費途に苦しむ合衆國がアラスカに投資し、南米に投資し、進で西比利亞、果は支那に投資する時、我國の受くる打擊や果して如何許であらうか。我國經濟の將來は決して樂觀を許さない事と思ふ。殊に現今支那に對する關係を觀るに、或は排日と云ひ、排貨と云ふ、其原因や山東の一問題にあるとは云へ、裏面に於て尙重大原因の潛めるなきやを思ふ時、其感をして一層深からしむるのである。果して然らば我國が今後世界經濟場裡に立つには非常の努力と考慮とを要する事で、殊に此支那に對する問題の如き最愼重の態度を要する事と考へる。